

March 13, 2020

**【前日の為替概況】ユーロドル、3日続落 世界の株価急落を受けてリスク回避のドル買い**

12日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは3日続落。終値は1.1185ドルと前営業日NY終値(1.1270ドル)と比べて0.0085ドル程度のユーロ安水準だった。欧州中央銀行(ECB)はこの日の定例理事会で、新型コロナウイルスのパンデミック(世界的流行)による域内経済への悪影響に対応するため、量的緩和政策を年末まで1200億ユーロ拡大すると発表した一方、政策金利は現行の0.00%に据え置いた。ECBが利下げに踏み切らなかったことで市場では失望感が広がり、イタリアなどの周辺国国債が急落(金利は上昇)。イタリア株式相場は17%安、独仏は12%安となりユーロ圏全体の値動きを示す指数は12%超下落と過去最大の下落率を記録した。米国株相場も寄り付き後まもなく7%超急落し、今週2回目となる「サーキット・ブレーカー(取引の一時停止)」措置を発動した。新型コロナによる景気不安の高まりでドル資金のひっ迫感が強まる中、世界の株式相場が急落したことを受けてリスク回避のドル買いが進み、一時1.1056ドルと2日以来の安値を付けた。

ただ、売り一巡後は買い戻しが優勢となり1.1227ドル付近まで下げ渋った。米連邦準備理事会(FRB)の金融調節を担うニューヨーク連銀が短期金融市場(レポ取引)に1兆5000億ドルを注入するとともに、継続中の国債購入について幅広い銘柄の国債を買い入れ対象にするとの方針を示すと、投資家のリスク回避姿勢がやや後退しユーロ買い・ドル売りが進んだ。市場では「事実上の量的緩和(QE)の再開」と受け止められた模様。

ドル円は小反発。終値は104.64円と前営業日NY終値(104.54円)と比べて10銭程度のドル高水準だった。米国が英国を除く欧州からの30日間の渡航禁止措置を発表すると、世界的な景気後退への警戒感から欧州株相場や時間外のダウ先物が下落。ECBが利下げを見送ったことも嫌気されて、欧州株相場が過去最大の下落率を記録、米国株相場も史上最大の下げ幅となった。ナイト・セッションの日経平均先物も大証終値比1500円安の1万6640円まで売り込まれるなど、あらゆる資産のキャッシュ化が進む中でドル全面高の展開となった。FRBが大規模資金供給を実施すると伝わると、米国株の下げ渋りとともに一時106.10円と日通し高値を付けた。

ただ、ダウ平均は715ドル安まで下げ幅を縮めたものの、引けにかけて再び下げ幅を広げ2352ドル安と過去最大の下げに。ドル円も104.61円付近まで押し戻されている。

ユーロ円は続落。終値は117.04円と前営業日NY終値(117.79円)と比べて75銭程度のユーロ安水準。欧州株相場やユーロドルの下落につれた売りが出て一時116.31円と日通し安値を付けたものの、ドル円の上昇につれた買いが入ると118.34円と日通し高値を付けた。ただ、引けにかけてはドル円の伸び悩みを受けて116.86円付近まで下押しした。

**【本日の東京為替見通し】乱高下繰り返す、週末リスクに要警戒**

本日の東京市場のドル円も乱高下しそうだ。前日の水準がどこだったのかが分からないような、ジェットコースター相場が続いている。すでに早朝からNZ株が過去最大の下げ幅を記録しているように、この後に開く本邦の株式市場も大荒れの展開が予想される。市場が以前のように単純に株価の下落がドル売り・円買いに動いているわけではないので、相場の方向性がつかみにくい。ただし、昨日欧州株の下落により欧州通貨が大幅に売られたように、株価の下落はクロス円では円買いに動くトレンドは続きそうだ。

また、週末のリスクにも警戒したい。昨年末から中東情勢の悪化、新型コロナウイルスの感染拡大、サウジアラビアの石油増産など週末にリスクオフになるニュースが流れ、週明けは窓を開けて円買いが始まることが多いことで、円ショートはリスクが高そうだ。

ドル円の売り材料としては、上記のようにすでにオセアニアの株式市場が下落しているため、一段の株式市場の下落でリスクオフが進む可能性はある。また、米国のスポーツイベントが続々と中止や延期(NBA、NHLは中止、MLBは開幕延期)が発表され、国内を含めた米国内での移動制限を要請され、米国が一步遅れて新型コロナウイルスの影響が表れてきていることで、これから感染拡大が明らかになるにつれドル安が進む可能性に警戒したい。

一方、ドル円の買い要因は、日銀による上場投資信託(ETF)や社債などの資産購入拡大が促されていることで、株価の下落が支えられた場合か。ただし、すでに日銀の含み損に懸念する声が高まっていることで、資産購入拡大は諸刃の剣にもなりそうだ。また、日本の新型コロナウイルスのPCR検査が依然とし

て非常に少ない（昨日 12 時時点で 9376 件、昨日は 181 件しか新たな検査が進んでいない）ことで、検査数の増加や、感染者の公表が進み、感染者が増加した場合は日本売り＝円売りになる可能性も高い。

ドル円以外の通貨も大きな動きを見せている。欧州通貨も大きく動いているが、アジア時間はオセアニア通貨の動きに警戒したい。すでに豪ドルは昨日対ドルで月曜につけた安値を更に割り込み 2008 年以来の水準まで下落しているが、朝方は急上昇したりと乱高下している。

なお、経済指標は本邦の第三次産業活動指数や、欧米からも複数発表されるが、経済指標で現在の為替市場がトレンドを作ることは難しいので、短期的には無視して構わないだろう。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

### <国内>

○13:30 ◇ 1月第三次産業活動指数（予想：前月比横ばい）

### <海外>

○16:00 ◇ 2月独卸売物価指数（WPI）

○16:00 ◎ 2月独消費者物価指数（CPI）改定値（予想：前月比 0.4%／前年比 1.7%）

○16:00 ◇ 1月トルコ鉱工業生産（予想：前月比 0.5%）

○16:45 ◇ 2月仏消費者物価指数（CPI）改定値（予想：前月比横ばい／前年比 1.4%）

○17:30 ◇ 2月スウェーデン失業率（予想：7.6%）

○21:00 ◇ 1月メキシコ鉱工業生産（季調済、予想：前月比 0.4%）

○21:30 ◇ 2月米輸入物価指数（予想：前月比▲1.0%）

○23:00 ◎ 3月米消費者態度指数（ミシガン大調べ、速報値、予想：95.0）

15日

○仏統一地方選

16日

### <国内>

○08:50 ◎ 1月機械受注

### <海外>

○09:01 ◇ 3月ライトムーブ英住宅価格

○11:00 ◎ 2月中国鉱工業生産

○11:00 ◎ 2月中国小売売上高

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

12 日 06:11 トランプ米大統領

「日本時間 10 時に国民に向けて演説する」

13 日 00:13

「必要なら緊急時の権限行使も」

「欧州渡航規制は拡大も早期終了の可能性もある」

「東京五輪、1 年間延期すべきかもしれない」

12 日 09:12 フライデンバーグ豪財務相

「財政と金融政策を調整することが重要」

「発表された刺激策は、4-6 月期の GDP を最大 1.5% 増加させる可能性」

「新型コロナウイルスの経済への完全な影響を判断するには時期尚早」

「ロウ豪準備銀行(RBA)総裁と本日話し合いを持った」

12 日 16:26 中国商務省

「中国の貿易は新型コロナウイルス拡散で不確実性の高まりに直面している」

12 日 16:27 スナク英財務相

「渡航禁止が英国にとって正しいこととは思わない」

「中期的な予算計画は良識ある経済運営を表している」

12 日 17:55 イラン外相

「新型肺炎対策の支援として国際通貨基金(IMF)に 50 憶ドルを要求」

12 日 19:19 ルメール仏財務相

「ECB は中小企業への融資を支援するために強力なメッセージを送るべき」

12 日 22:35 ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁

「新型コロナウイルスの感染拡大で成長見通しに甚大なショック」

「野心的で協調的な財政対応が必要」

「あらゆる政策手段を必要に応じて調整する用意」

「潤沢な水準の金融緩和が必要」

「QE プログラムのすべての柔軟性を活用」

12 日 22:57 欧州中央銀行(ECB)

「20 年 GDP 見通し 0.8%、前回予測の 1.1%から下方修正」

「21 年 GDP 見通し 1.3%、前回予測の 1.4%から下方修正」

「22 年 GDP 見通し 1.4%、前回予測と変わらず」

「インフレ見通し、20 年 1.1%、21 年 1.4%と前回予測から変わらず」

13 日 00:52 中国政府報道官

「新型コロナウイルスを中国へ持ち込んだのは米軍だと思われる」

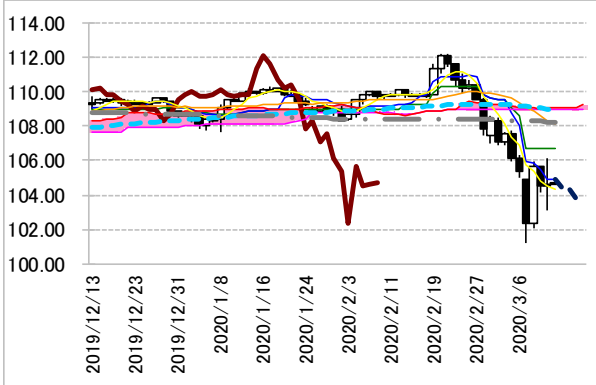
13 日 05:04 メルケル独首相

「独国内の新型コロナウイルス感染は急速に拡大」

「新型コロナウイルスは未知への挑戦」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

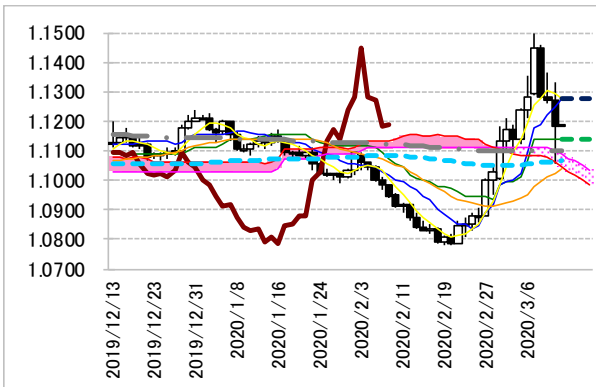


### <ドル円＝転換線を上回る水準の重さ続きそう>

小陽線引け。103円台から106円台まで大きく上下へ振れ、次に動き出す方向をうかがう格好で104円台にいったん収れんしてNYを引けた。

方向感が定まらないが、目先のすう勢を示す5日移動平均線が下向きの流れを強めたままのなか、一目均衡表・転換線も下落傾向を維持。本日 104.87 円に位置する転換線を上回る水準から押し戻される展開が続きそうだ。

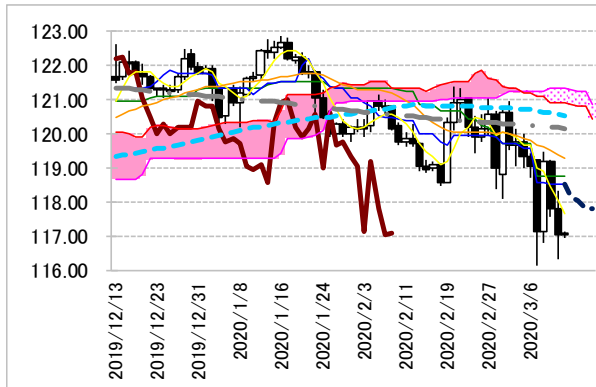
レジスタンス 1	106.10(3/12 高値)
前日終値	104.64
サポート 1	104.24(3/12 レンジ 38.2%水準)
サポート 2	103.09(3/12 安値)



### <ユーロドル＝転換-基準線レンジ、まず下方突破を試すか>

下影陰線引け。上昇傾向の一目均衡表・転換線を下抜けた水準で戻りを試したが、同線を回復するまでに及ばなかった。転換線は本日の水準 1.1276 ドルで頭打ちとなる見込み。同線と 1.1137 ドルで横ばいの一目・基準線に挟まれたレンジを中心に、不安定に上下する展開を想定する。レンジをブレイクを試すとしたら、まずは目先のすう勢を示す5日移動平均線が示唆する下方向からとなりそうだ。

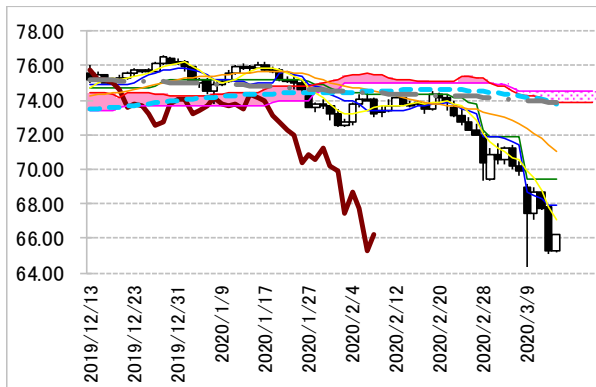
レジスタンス 1	1.1276(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1185
サポート 1	1.1137(日足一目均衡表・基準線)



### <ユーロ円＝5日線付近が重く、安値更新の流れ再開か>

陰線引け。11日に目先のサポートが期待された基準線を再び割り込むと下落が加速した。一目均衡表・転換線は現水準 118.54円から117円台への低下が見込まれ、売り優位の状態を示唆するなか、9日につけた昨年9月以来の安値 116.13円の下抜けに迫った。116.31円に下値をとどめ下げ渋ったが推移は不安定。117.65円前後へ低下した5日移動平均線付近から上の水準での重さ継続が嫌気されれば、安値更新の流れが再開するだろう。

レジスタンス 1	117.65(5日移動平均線)
前日終値	117.04
サポート 1	116.31(3/12 安値)



### <豪ドル円＝5日線付近で戻り抑えられそう>

大陰線引け。一目均衡表・転換線の抵抗をこなしきれず、9日の下振れでつけた64.38円の下抜けをうかがい、2009年3月以来の安値更新を視野に入れた展開となっている。地合いの弱さを示す大きな陰線を形成した。反発しても、67円付近で低下中の5日移動平均線付近で上昇力を鈍らせそう。戻り売り優位の展開が続きそうだ。

レジスタンス 1	66.51(3/12 レンジ半値水準)
前日終値	65.25
サポート 1	65.06(3/12 安値)

